

不要発射等

第19号 2.4GHz帯高度化小電力データ通信システム(2400～2483.5MHz)

1. WLAN (IEEE802.11b/g/n/ax) (DSSS方式 / OFDM方式)
2. Bluetooth Classic (BDR/EDR) (FHSS方式)
3. Bluetooth Low Energy (BLE) (その他のデジタル変調方式)

第19号の3 5GHz帯小電力データ通信システム(5150～5350MHz, 5470～5730MHz)

WLAN (IEEE802.11a/n/ac/ax) (OFDM方式)

2022年7月21日

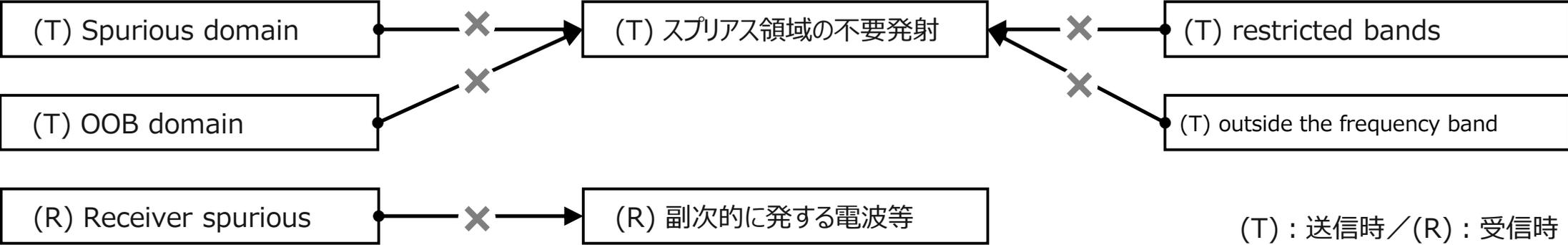
NTTアドバンステクノロジー株式会社

無線LAN等検討会
参考資料4-1-4より

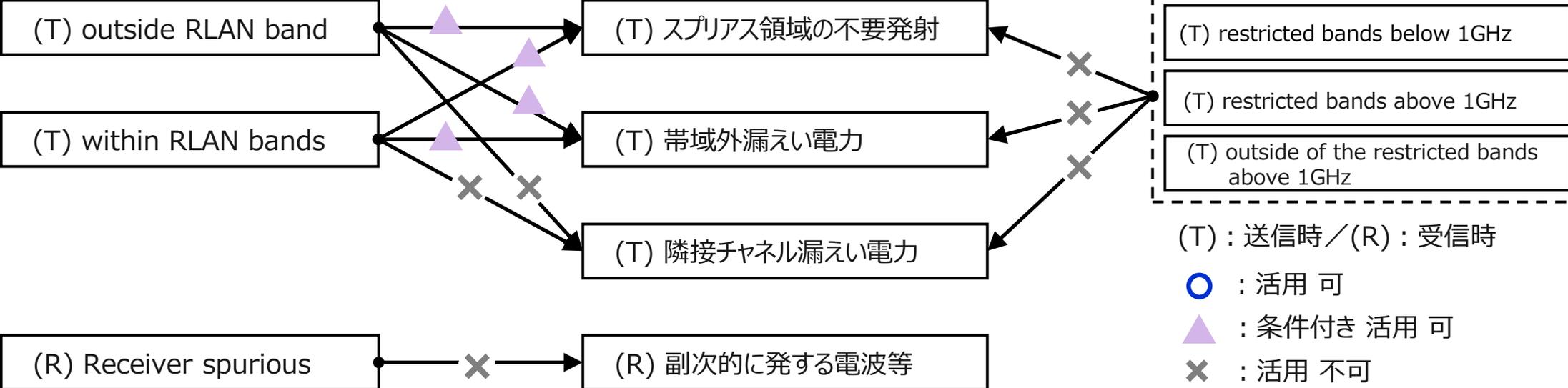
送信時・受信時の区別が同一かつ周波数範囲が重なる可能性がある項目について詳細比較を行った

2.4GHz WLAN/BLE

2.4GHz BT



5GHz WLAN



不要発射等の試験種別 と 比較対象

I. 不要発射等の試験種別



【2.4GHz Spurious】
【5GHz Outside】
【2.4GHz/5GHz Receiver Spurious】

空中線端子からの不要発射 **伝導試験**
& 筐体からの不要発射 **放射試験**

or

空中線と筐体からの不要発射(同時測定)
放射試験 のみ



【2.4GHz/5GHz共通】

空中線端子付きの無線設備
伝導試験 のみ

アンテナ一体型の無線設備
放射試験 のみ



【2.4GHz/5GHz制限帯域の内外】
【2.4GHz割当周波数帯域の外】
【5GHz割当周波数帯域の内外】

空中線端子からの不要発射 **伝導試験**
& 筐体からの不要発射 **放射試験**

or

空中線と筐体からの不要発射(同時測定)
放射試験 のみ

【2.4GHz OOB】【5GHz Within】

空中線端子付き無線設備 **伝導試験**

“shall”ではなく“should”なので、必ずしも伝導試験でなくてもよい

アンテナ一体型の無線設備 **放射試験**

“may be used”なので、放射試験でもよいと記載がある

日本：空中線端子の有無により、試験種別が異なる

欧州：2.4GHz帯OOB、5GHz帯Withinの帯域以外では放射試験による筐体からの不要発射の測定が必須

米国：帯域によらず放射試験による筐体からの不要発射の測定が必須

II. 比較対象 と 活用可能性の分類

試験対象機器が空中線端子付きの無線設備の場合

- ✓ 欧米の**放射試験**による測定データは、日本の**伝導試験**の技術基準に対して換算して評価ができない → 活用 不可
- ✓ 欧米の不要発射等の試験は放射試験のみで実施されるとの意見から**伝導試験**の方法は比較対象としない※

試験対象機器がアンテナ一体型の無線設備

- ✓ 日欧米の**放射試験**の方法を比較対象とした。

活用可

条件付き活用可

活用不可

試験項目	日本		欧州		米国		
	技術基準	試験方法	技術基準 & 試験方法		技術基準	試験方法	
	・無線設備規則 ・証明規則	別表第43	EN 300 328 V2.2.2		FCC Part 15 Subpart C	ANSI C63.10:2013 + KDB 558074	
周波数の偏差	許容偏差 : $\pm 50 \times 10^{-6}$ 以内		(三) (十五)	規定なし	—	規定なし	—
占有周波数帯幅及び拡散帯域幅							
占有周波数帯幅	WLAN 11b / BLE WLAN 11g/n HT20/ax HE20 WLAN 11n HT40/ax HE40	: 26MHz以下 : 26MHz以下 : 40MHz以下	(四) (十六)	4.3.2.7	5.4.7	規定なし	—
拡散帯域幅 WLAN 11bのみ	500kHz以上 拡散率 : 5以上 (拡散率 : 拡散帯域幅を変調速度で除した値)		(四) (十六)	規定なし	—	15.247(a)(2)	11.8 KDB558074-8.2
スプリアス発射又は不要発射の強度							
不要発射の強度	2387MHz未満 2387MHz以上 2400MHz未満 2483.5MHz超 2496.5MHz以下 2496.5MHz超	: 2.5uW/MHz以下 : 25uW/MHz以下 : 25uW/MHz以下 : 2.5uW/MHz以下	(五) (十七) 別表第1	P.6 4.3.2.8 4.3.2.9	5.4.8 5.4.9	P.10 15.247(d) 15.205(a) 15.209(a)	11.11 11.12 6.4 6.5 6.6 6.10.4
空中線電力の偏差							
空中線電力	WLAN 11b WLAN 11b以外 26MHz以下 40MHz以下	: 10mW/MHz以下 : 10mW/MHz以下 : 5mW/MHz以下	(六) (十八)	4.3.2.2 4.3.2.3	5.4.2 5.4.3	15.247(b)(3) 15.247(e)	11.9 11.10 KDB558074 2.1/8.3.2
空中線電力の偏差	工事設計書記載の定格値に対して 上限+20%, 下限-80%						
空中線電力	BLE	: 10mW以下	(六) (十八)	4.3.2.2 4.3.2.3	5.4.2 5.4.3	15.247(b)(3) 15.247(e)	11.9 11.10 KDB558074 2.1/8.3.2
空中線電力の偏差	工事設計書記載の定格値に対して 上限+20%, 下限-80%						
副次的に発する電波等の限度	1GHz未満 1GHz以上10GHz未満 10GHz以上	: 4nW以下 : 20nW以下 : 20nW以下	(七) (十九)	P.31 4.3.2.10	5.4.10	規定なし	—
キャリアセンス機能 (1)	WLAN 11n/ax 40MHz 上記以外	: 要 : 規定なし	(八) (二十)	4.3.2.6	5.4.6	規定なし	—
送信空中線絶対利得	12.14dBi以下 但しEIRPが12.14dBiの送信空中線に平均電力10mWの空中線電力を加えたとき以下の値となるときは、その低下分を補うことができる。		(十)	規定なし	—	15.203 15.247(b)(4)	仕様確認のみ
送信空中線の主輻射の角度幅	送信空中線の水平及び垂直面の主輻射の角度の幅は360/A*度を超えないこと。A* EIRPを2.14dBiの送信空中線に平均電力10mW/MHzを加えたときの値で除したものを、1を下回るときは1とする。		(十一) (二十二)	規定なし	—	規定なし	—
混信防止機能	識別符号を自動的に送信し、又は受信する機能を有すること。		(十二) (二十三)	規定なし	—	規定なし	—

活用可

条件付き活用可

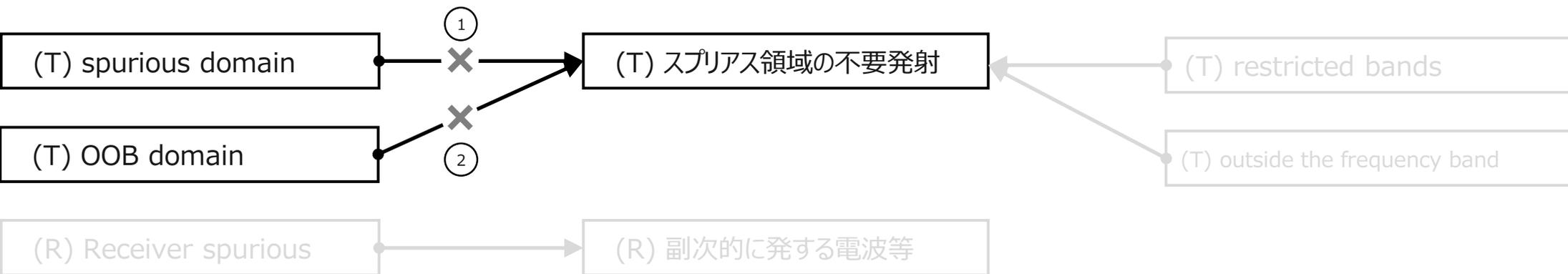
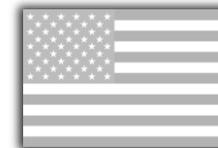
活用不可

試験項目	日本		欧州		米国		
	技術基準	試験方法	技術基準 & 試験方法		技術基準	試験方法	
	・無線設備規則 ・証明規則	別表第43	EN 300 328 V2.2.2		FCC Part 15 Subpart C	ANSI C63.10:2013	
周波数の偏差	許容偏差：±50 ×10 ⁻⁶ 以内		(三) (十五)	規定なし	—	規定なし	—
占有周波数帯幅及び拡散帯域幅							
占有周波数帯幅	83.5MHz以下		(四) (十六)	4.3.1.8	5.4.7	15.247(a)(1)	6.9.2 7.8.2
拡散帯域幅	500kHz以上 拡散率：5以上（拡散率：拡散帯域幅を変調速度で除した値）		(四) (十六)	4.3.1.4	5.4.4	15.247(a)(1)(iii)	7.8.3 *仕様確認のみ
スプリアス発射又は不要発射の強度							
不要発射の強度	2387MHz未満 2387MHz以上 2400MHz未満 2483.5MHz超 2496.5MHz以下 2496.5MHz超	: 2.5uW/MHz以下 : 25uW/MHz以下 : 25uW/MHz以下 : 2.5uW/MHz以下	(五) (十七) 別表第1	P.6 4.3.1.9 4.3.1.10	5.4.8 5.4.9	P.10 15.247(d) 15.205(a) 15.209(a)	7.8.8 6.4 6.5 6.6 6.10.4
空中線電力の偏差							
空中線電力	3mW/MHz以下		(六) (十八)	4.3.1.2	5.4.2	15.247 (a)(1) 15.247 (b)(1)	7.8.5
空中線電力の偏差	上限+20%,下限-80%						
副次的に発する電波等の限度	1GHz未満 1GHz以上10GHz未満 10GHz以上	: 4nW以下 : 20nW以下 : 20nW以下	(七) (十九)	P.31 4.3.2.11	5.4.10	規定なし	—
キャリアセンス機能 (1)	—		—	—	—	—	—
送信空中線絶対利得	12.14dBi以下 但しEIRPが12.14dBiの送信空中線に平均電力10mWの空中線電力を加えたとき以下の値となるときは、その低下分を補うことができる。		(十)	*EIRP12.14dBm以下 の場合は適用しない	規定なし	—	15.203 15.247(b)(4) *仕様確認のみ
送信空中線の主輻射の角度幅	送信空中線の水平及び垂直面の主輻射の角度の幅は360/A*度を超えないこと。A* EIRPを2.14dBiの送信空中線に平均電力10mW/MHzを加えたときの値で除したもの。1を下回るときは1とする。		(十一) (二十二)	*EIRP12.14dBm以下 の場合は適用しない	規定なし	—	規定なし
混信防止機能	識別符号を自動的に送信し、又は受信する機能を有すること。		(十二) (二十三)	規定なし	—	規定なし	—
ホッピング周波数滞留時間	0.4秒以下 かつ 0.4秒に拡散率を乗じた時間内で任意の周波数での周波数滞留時間の合計が0.4秒以下		(十三) (二十四)	4.3.1.4	5.4.4	§ 15.247 (a)(1)(iii)	7.8.4

- スプリアス領域の不要発射 -

2.4GHz WLAN/BLE

2.4GHz BT



(T) : 送信時 / (R) : 受信時

○ : 活用 可

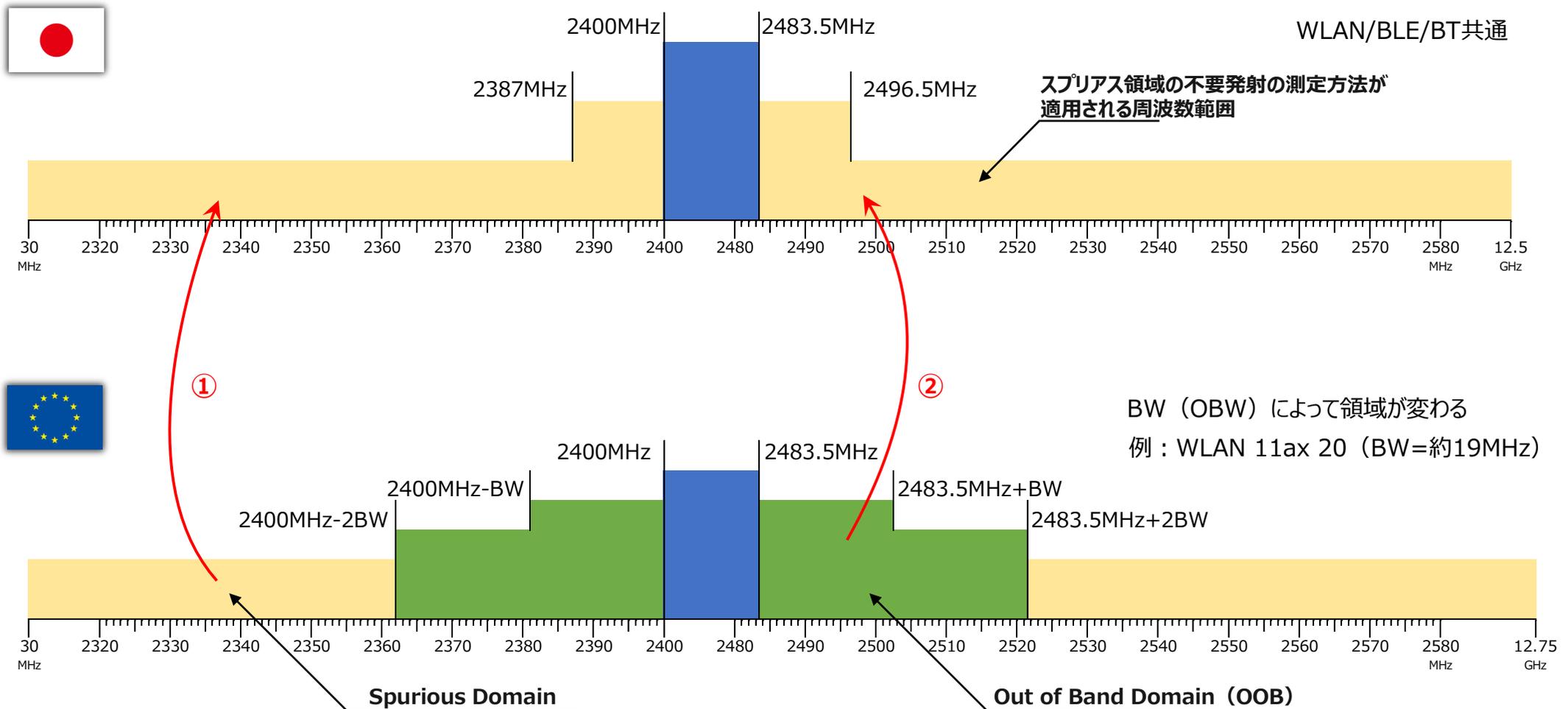
▲ : 条件付き 活用 可

✕ : 活用 不可



- 日本は2400MHz～2483.5MHzを除いた30MHz～12.5GHzの帯域（スプリアス領域）の不要発射の強度の測定方法が一律に定められている
- 欧州は「Spurious Domain」と「Out of Band Domain」それぞれで測定方法が異なり、EUTのBW（OBW）の違いにより領域の境界周波数も異なる

① Spurious Domain → スプリアス領域の不要発射
 ② Out of Band Domain (OOB) → スプリアス領域の不要発射





	日本	欧州	
定義	通常の変調状態で動作させたときに給電線に供給される周波数ごとの不要発射の 平均電力	割当帯域および帯域外領域(Out of band domain)の外側における送信状態での電波発射強度	
技術基準	電力密度	電力値 (放射試験の場合はERPまたはEIRP)	
試験種別	P.2参照	P.2参照	
試験条件等	試験周波数	発射可能な周波数のうち、上限、中間及び下限の3波の周波数 (LMH)	
	EUT	出力：規定なし 動作：単一chでの連続またはバースト出力 (OFDMでバースト波の場合は、副搬送波の数が少ない状態の時間の割合が最小となる変調状態 (ショートプリアンブル) とする) 変調：標準符号化試験信号で変調	出力：最悪値条件 動作：BT：LHで固定できない場合はホッピング動作 WLAN/BLE：通常動作 変調：最悪値条件
	測定機器設定	スベアナの設定 ●探索時の設定 (周波数ドメイン) SPAN：30MHz ~ 12.5GHz (2400MHz~2483.5MHzを除く) RBW：参照帯域幅 (1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz) VBW：RBWと同程度 SWT：測定精度が保証される最小時間※ SWP：Single Detector：Pos.Peak ※BT：1サンプル当たり1ホッピング周期以上 ※バースト波：1サンプル当たり1バーストの継続時間以上 ●振幅測定時の設定 (タイムドメイン) CenterFreq.：探索した周波数 SPAN：0Hz RBW：参照帯域幅 (1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz) SWP：Single Detector：Sample	スベアナの設定 ●探索時の設定 (周波数ドメイン) SPAN：30MHz ~ 12.5GHz (2400MHz~2483.5MHzを除く) RBW：1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz VBW：1GHz以下：300kHz/1GHz超：3MHz SWT：1サンプルに2バーストが含まれる時間 SWP：Max Hold Point：1GHz以下：19400/1GHz超：23500 Detector：Pos.Peak ●振幅測定時の設定 (タイムドメイン電力測定モード) CenterFreq.：探索した周波数 SPAN：0Hz RBW：1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz VBW：1GHz以下：300kHz/1GHz超：3MHz SWT：バースト長の120% SWP：Single Point：SWT÷1μsec (最大30000) Detector：RMS
測定概要	スベアナを用いて 手順① スプリアス領域の不要発射の探索 手順② スプリアス領域の不要発射の振幅測定 搬送波の近傍等では、必要に応じて、分解能帯域幅をより狭く設定して測定することができる。その場合は、不要発射の強度を参照帯域幅での値に換算すること。	スベアナを用いて 手順①スプリアス領域において許容値-6dBを上回る強度の不要発射を探索 手順② スプリアス領域の不要発射の振幅測定 バースト状の不要発射の場合はバースト内の平均電力を算出する。	
試験結果の記載方法	周波数とスプリアス領域の最大不要発射の強度：μW/MHz	周波数と不要発射の強度：dBm/MHz (EIRP)	
活用の可否および条件(案)	活用不可 Sample検波とRMS検波での測定値は換算関係にないことから、評価できない。	換算や条件を付すなどしても日本の技術基準に対して、評価ができない測定値	
備考	告示88号別表第一には、日本の「不要発射の強度」の定義は「平均電力」で規定されているが、振幅測定時の設定及び手順ではシングルスイープのサンプル検波までしか記載されていない。		

換算不可



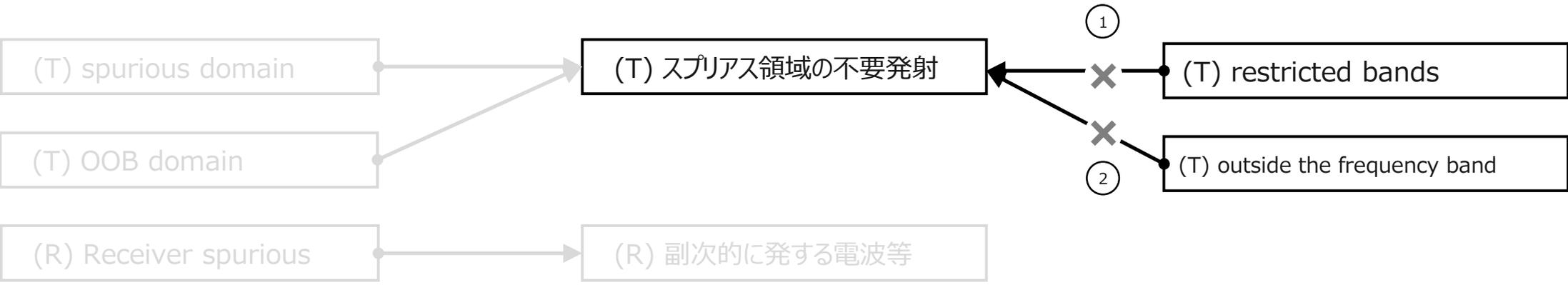
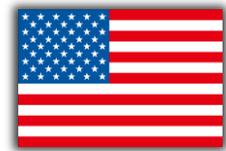
	日本	欧州
定義	通常の変調状態で動作させたときに給電線に供給される周波数ごとの不要発射の 平均電力	割当帯域のすぐ外かつスプリアスドメインに含まれない帯域における送信状態での電波発射強度
技術基準	電力密度	電力値（放射試験の場合はERPまたはEIRP）
試験種別	P.2参照	P.2参照
試験条件等	試験周波数	発射可能な周波数のうち、上限、中間及び下限の3波の周波数（LMH）
	EUT	出力：規定なし 動作：単一chでの連続またはバースト出力 （OFDMでバースト波の場合は、副搬送波の数が少ない状態の時間の割合が最小となる変調状態（ショートプリアンプル）とする） 変調：標準符号化試験信号で変調
	測定機器設定	<p>スピアナの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●探索時の設定（周波数ドメイン） <ul style="list-style-type: none"> SPAN：30MHz～12.5GHz（2400MHz～2483.5MHzを除く） RBW：参照帯域幅（1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz） VBW：RBWと同程度 SWT：測定精度が保証される最小時間※ SWP：Single Detector：Pos.Peak ※BT：1サンプル当たり1ホッピング周期以上 ※バースト波：1サンプル当たり1バーストの継続時間以上 ●振幅測定時の設定（タイムドメイン） <ul style="list-style-type: none"> CenterFreq.：探索した周波数 SPAN：0Hz RBW：参照帯域幅（1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz） SWP：Single Detector：Sample
測定概要	スピアナを用いて 手順① スプリアス領域の不要発射の探索 手順② スプリアス領域の不要発射の振幅測定 搬送波の近傍等では、必要に応じて、分解能帯域幅をより狭く設定して測定することができる。その場合は、不要発射の強度を参照帯域幅での値に換算すること。	スピアナを用いて 手順① CenterFreq.（上側）を1MHz加えながら振幅測定を行う 手順② CenterFreq.（下側）を1MHz減じながら振幅測定を行う バースト状の不要発射の場合はバースト内の平均電力を算出する。
試験結果の記載方法	周波数とスプリアス領域の最大不要発射の強度：μW/MHz	各CenterFreqでの不要発射の強度：dBm/MHz（EIRP）
活用の可否および条件（案）	活用不可 Sample検波とRMS検波での測定値は換算関係にないことから、評価できない。	換算や条件を付すなどしても日本の技術基準に対して、評価ができない測定値
備考	告示88号別表第一には、日本の「不要発射の強度」の定義は「平均電力」で規定されているが、振幅測定時の設定及び手順ではシングルスイープのサンプル検波までしか記載されていない。	

換算不可

- スプリアス領域の不要発射 -

2.4GHz WLAN/BLE

2.4GHz BT



- (T) : 送信時 / (R) : 受信時
- : 活用 可
- ▲ : 条件付き 活用 可
- ✕ : 活用 不可



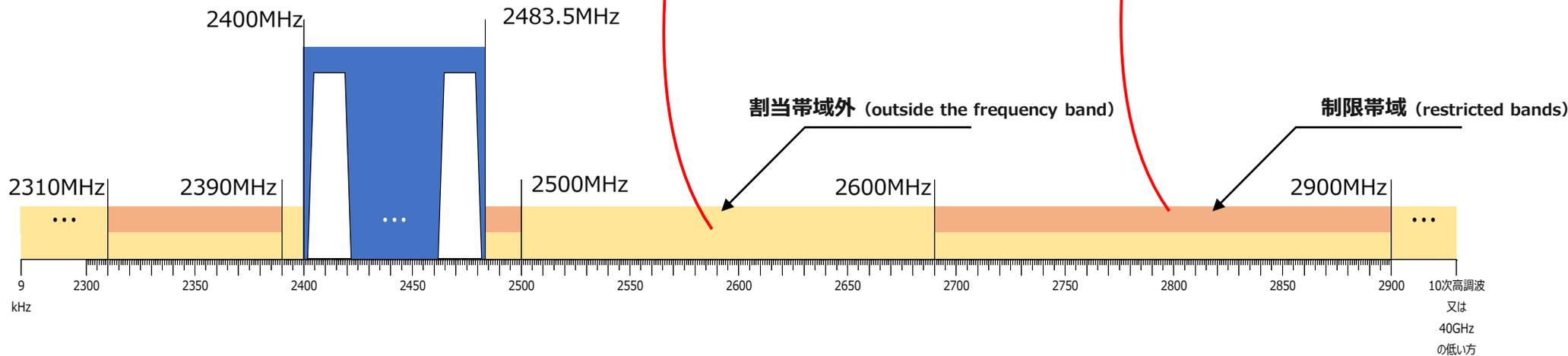
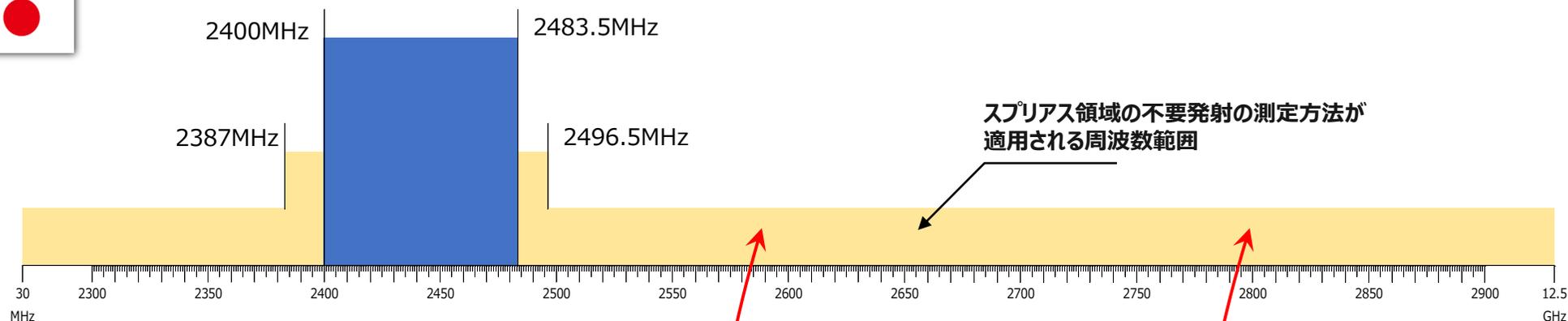
- 日本は2400MHz～2483.5MHzを除いた30MHz～12.5GHzの帯域（スプリアス領域）の不要発射の強度の測定方法が一律に定められている
- 米国は9kHz～10次高調波周波数（または40GHz）のうち割当帯域外全体に適用する測定方法と「制限帯域」のみに適用する測定方法が定められている

①制限帯域 (restricted bands) の不要発射

→ 日本のスプリアス領域の不要発射

②割当帯域外 (outside the frequency band) の不要発射

→ 日本のスプリアス領域の不要発射





	日本	米国
定義	通常の変調状態で動作させたときに給電線に供給される周波数ごとの不要発射の 平均電力	意図的放射機器の制限帯域(restricted band)内における不要発射の強度
技術基準	電力密度	電界強度
試験種別	P.2参照	P.2参照
試験条件等	試験周波数	発射可能な周波数のうち、上限、中間及び下限の3波の周波数 (LMH)
	EUT	出力：規定なし 動作：単一chでの連続またはバースト出力 変調：標準符号化試験信号で変調
	測定機器設定	<p>スペアナの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ●探索時の設定 (周波数ドメイン) <ul style="list-style-type: none"> SPAN：30MHz～12.5GHz (2400MHz～2483.5MHzを除く) RBW：参照帯域幅 (1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz) VBW：RBWと同程度 SWT：測定精度が保証される最小時間 SWP：Single Detector：Pos.Peak ●振幅測定時の設定 (タイムドメイン) <ul style="list-style-type: none"> CenterFreq.：探索した周波数 SPAN：0Hz RBW：参照帯域幅 (1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz) SWP：Single Detector：Sample
測定概要	<p>スペアナを用いて</p> <p>手順① スプリアス領域の不要発射の探索</p> <p>手順② スプリアス領域の不要発射の振幅測定</p> <p>搬送波の近傍等では、必要に応じて、分解能帯域幅をより狭く設定して測定することができる。その場合は、不要発射の強度を参照帯域幅での値に換算すること。</p>	<p>スペアナを用いて</p> <p>手順① 制限帯域内の不要発射周波数を特定</p> <p>手順② 検波およびRBWを周波数帯域に合わせて設定</p> <p>手順③ 不要発射の周波数範囲を測定して最大値を電界強度値で記録</p>
試験結果の記載方法	周波数とスプリアス領域の最大不要発射の強度：μW/MHz	周波数と不要発射の電界強度(dBμV/m)
活用の可否および条件(案)	<p>活用 不可</p> <p>Sample検波とPos.Peak検波での測定値は換算関係にないことから、評価できない</p>	
備考	Pos.Peak検波での測定値は、必ずSample検波での測定値以上の値となる。	

換算不可

Frequency	RBW
9 kHz to 150 kHz	200 Hz to 300 Hz
0.15 MHz to 30 MHz	9 kHz to 10 kHz
30 MHz to 1000 MHz	100 kHz to 120 kHz
>1000 MHz	1 MHz

換算や条件を付すなどしても
日本の技術基準に対して、評価ができない測定値



	日本	米国	
定義	通常の変調状態で動作させたときに給電線に供給される周波数ごとの不要発射の 平均電力	意図的放射機器の動作状態における割当帯域(2400MHz~2483.5MHz)外での不要発射の電力値	
技術基準	電力密度	搬送波との電力比	
試験種別	P.2参照	P.2参照	
試験条件等	試験周波数	発射可能な周波数のうち、上限、中間及び下限の3波の周波数 (LMH)	使用周波数のうち最小、中間周波数と最大周波数 (LMH)
	EUT	出力：規定なし 動作：単一chでの連続またはバースト出力 変調：標準符号化試験信号で変調	出力：規定なし 動作：連続またはバースト出力 変調：規定なし
	測定機器設定	スペアナの設定 ●探索時の設定 (周波数ドメイン) SPAN：30MHz ~ 12.5GHz (2400MHz~2483.5MHzを除く) RBW：参照帯域幅 (1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz) VBW：RBWと同程度 SWT：測定精度が保証される最小時間 SWP：Single Detector：Pos.Peak ●振幅測定時の設定 (タイムドメイン) CenterFreq.：探索した周波数 SPAN：0Hz RBW：参照帯域幅 (1GHz以下：100kHz/1GHz超：1MHz) SWP： Single Detector： Sample	スペアナの設定 Center.Freq：搬送波中心周波数および不要発射の周波数 SPAN：ch帯域幅の1.5倍 RBW：100kHz VBW：300kHz以上 SWT：auto SWP：Max Hold Detector： Pos.Peak ●Band edge測定時の設定 (積分法の場合) ※ SPAN：2MHz RBW：100kHz VBW：RBW×3以上 SWT：auto SWP：Max Hold Detector： Pos.Peak ※搬送波帯域から2MHz以内の測定はBand edge測定時の設定を適用可
測定概要	スペアナを用いて 手順① スプリアス領域の不要発射の探索 手順② スプリアス領域の不要発射の振幅測定 搬送波の近傍等では、必要に応じて、分解能帯域幅をより狭く設定して測定することができる。その場合は、不要発射の強度を参照帯域幅での値に換算すること。	スペアナを用いて 手順① 9kHzから25GHzの範囲を掃引して制限帯域外での不要発射周波数を確認 手順② 中心周波数を搬送波周波数帯として周波数範囲での最大値を記録 手順③ CenterFreqを①で確認した周波数に調整して不要発射周波数帯での最大値を記録 手順④で測定された搬送波の測定値と手順③で測定された不要発射の測定値の比を、許容値と比較して大きいものから順に3周波分記録する	
試験結果の記載方法	周波数とスプリアス領域の最大不要発射の強度：μW/MHz	周波数、搬送波周波数における電力最大値と不要発射周波数における電力最大値の比(dB)	
活用の可否および条件(案)	<p>活用 不可</p> <p>Sample検波とPos.Peak検波での測定値は換算関係にないことから、評価できない</p>		
備考	Pos.Peak検波での測定値は、必ずSample検波での測定値以上の値となる。		

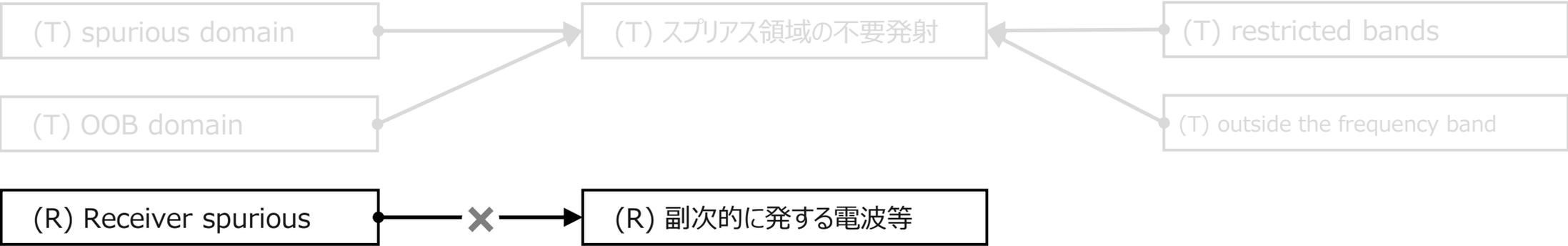
換算不可

換算や条件を付すなどしても
日本の技術基準に対して、評価ができない測定値

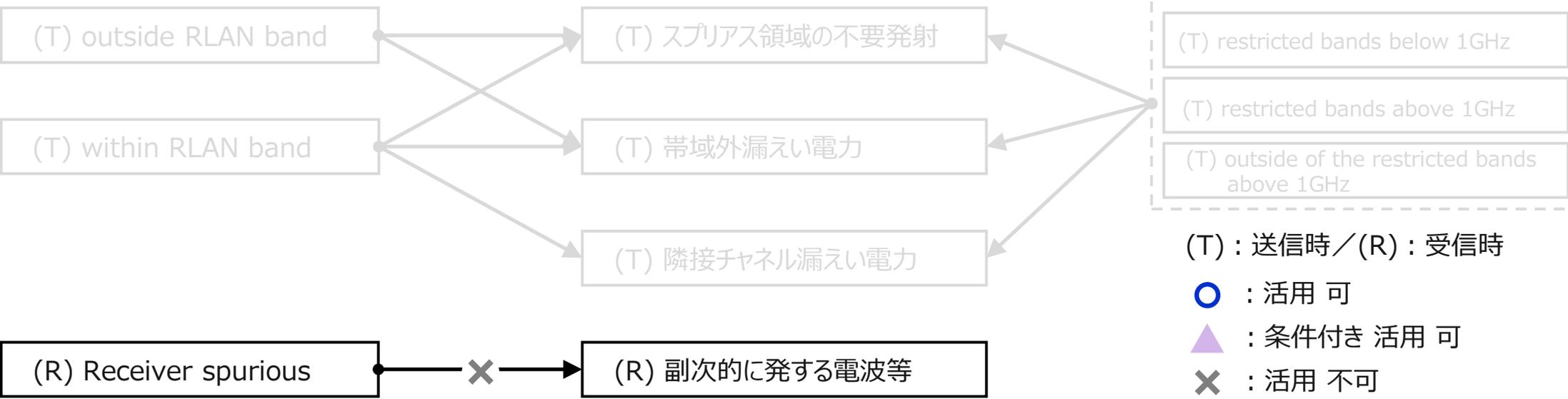
- 副次的に発する電波等 -

2.4GHz WLAN/BLE

2.4GHz BT



5GHz WLAN



(T) : 送信時 / (R) : 受信時

- : 活用可
- ▲ : 条件付き活用可
- ✕ : 活用不可



	日本	欧州
定義	受信状態において無線機の給電線に供給される測定周波数帯域ごとの 電力値	受信状態で発生する任意の周波数での発射
技術基準	1GHz未満 : 4nW以下 1GHz以上～10GHz未満 : 20nW以下 10GHz以上 : 20nW以下	電力値 (放射試験の場合はERPまたはEIRP) 1GHz未満 : -57dBm (RBW : 100kHz) 1GHz以上 : -47dBm (RBW : 1MHz)
試験種別	P.2参照	P.2参照
試験条件等	試験周波数	発射可能な周波数のうち、上限、中間及び下限の3波の周波数 (LMH)
	EUT	出力 : 規定なし 動作 : 連続受信状態 変調 : 規定なし
	測定機器設定	スペアナの設定 ● 探索時の設定 (周波数ドメイン) SPAN : 30MHz ~ 12.5GHz RBW : 参照帯域幅 1MHz VBW : RBWと同程度 SWT : 測定精度が保証される最小時間 SWP : Single Detector : Pos.Peak ● 振幅測定時の設定 (タイムドメイン) CenterFreq. : 探索した周波数 SPAN : 0Hz RBW : 1GHz未満 : 100kHz / 1GHz以上 : 1MHz SWP : Single Detector : Sample
測定概要	スペアナを用いて 手順① 副次的に発する電波の周波数を探索 手順② 副次的に発する電波の振幅測定 手順①で測定された電波の最大値が許容値の1/10以下の場合、振幅測定を行わずに、その値をもって測定値とすることができる。	スペアナを用いて 手順① スプリアス領域において許容値-6dBを上回る強度の不要発射を探索 手順② スプリアス領域の不要発射の振幅測定 バースト状のスプリアスでは、バーストの開始時間と終了時間の間での平均値を求める。
試験結果の記載方法	周波数と副次的に発する電波等の強度 : nWまたはpW	周波数と受信機のスプリアス発射強度 : 電力値dBm
活用の可否および条件(案)	活用 不可 欧州の放射試験での測定値であるERPまたはEIRPを、電力値に換算するための情報が記載されないことから換算ができず、日本の技術基準に評価ができないため	換算や条件を付すなどしても日本の技術基準に対して、評価ができない測定値
備考		

換算不可